

**活動名（教科）** わらぐつの中の神様（国語）

**対象学年** 5年

**実施期間** 1月

**実践者（所属）** 谷澤 伸英（南百合小）



### 1. 指導にあたって

#### (1) この単元の特徴や指導の難しさ

- 子どもたちに場面の様子を想像させながら読み進める必要があると考えた。
- 場面読みをしたので、本文の白黒コピーを教材としたため、挿絵のイメージをカラーで鮮明に伝えたいと考えた。
- わらぐつや雪下駄の実物を見せながら、その様子をはっきりと伝えたいと考えた。

#### (2) それを克服するための ICT 機器やメディアの活用（利用の意図と工夫）

- 投影機とプロジェクターを用いて、教科書の挿絵を拡大することにした。
- 投影機はデジカメのように写真を撮りためていく機能があったので、授業に入る前に挿絵をすべて撮影しておいて、必要に応じてすぐに挿絵を再生できるようにした。
- わらぐつや雪下駄は、授業中に話題になったときに、そのつくりなどがよく分かるように、投影機で手軽に拡大しながら見せた。
- 必要に応じて、単元の中のどの授業でも随時活用できるようにした。

### 2. 単元の主な目標

- 互いの思いや考えを交流し、自分の考えを深める力を育てる

### 3. 指導計画の概要（全 8 時間 但し、投影機・プロジェクターは随時活用）

時間	学習内容	児童の活動（利用メディア）	指導の留意点
	○第 1 場面を読む。 ○人柄の分かるところや、心に残る言葉に線を引きながら感じたことや分かったことを書き込んでいく。 ・場人物の人柄や物語の背景について話し合う。 ・わらぐつに対するおばあちゃんとマサエの見方の違いを話し合う。	投影機とプロジェクター  投影機とプロジェクター	挿絵を拡大して見せながらイメージをふくらませるようにする。  わらぐつや雪下駄の様子を拡大して見せながら、子どもたちが本文を読み進める手助けとする。

### 4. 取り組み後の子ども達の変容や成果

- 挿絵を大きく拡大して見せることにより、子どもたちが場面の様子を実感しながら、本文を読み進めることができた。話の内容をより身近に感じていた。
- わらぐつや雪下駄の細かい部分を拡大して見せることで、わらぐつを編む大変さや、雪下駄のつま先や鼻緒などの装飾が分かり、登場人物の心情を理解するのに役立った。